「ライブFG」の管理方法

1. まず「詳細設定」で「ブレイクアウトルーム」がon、「リモートサポート」がoffということが前提になります（各教場の詳しい先生が設定済みです）。
2. 「ライブFG」の管理は、パソコンからしか出来ないので、パソコンで管理する。
3. 「ライブ授業」と同じように、FGのミーティングを開始する。
4. ブレイクアウトルームを作成し、それぞれに名前を付ける。
5. 一旦「ブレイクアウトルーム」を始動してしまうと、途中で「ブレイクアウトセッション」（「質問の小部屋」の数）の追加が出来ないので、初めに必要数+（安全のため）の「ブレイクアウトセッション」を作っておく。

やり方は、「・・・詳細」から、「ブレイクアウトセッション」をクリック（モニター画面の大きさによっては初めから見えている場合もある）、「セッションの作成」で必要数+αを「手動」で設定する。

その時、セッション名は、「タブレットの番号」や「質問対応する先生の名前」にしておくと便利です。（久米川校では、各タブレットにテプラでアカウント番号を貼っています。）

特に、個別授業、クラス授業をFGアカウントから派生させてブレイクアウトセッションで行う場合は、授業クラスの名前や、個別の生徒の名前など、わかる名前にする。

セッション名を変えずにそのままにしておくと、「セッション番号」が最後に記載されている関係で画面が切れて何番が分からないです。（生徒の割り振りが出来ない。）

1. 講師用のタブレットをFGのミーティングに参加させて、タブレット番号と同じ番号のブレイクアウトセッションに招待する。やり方は、（見えない時は、「・・・詳細」から）「ブレイクアウトセッション」に入って、同じセッション番号を「割り当て」から選択する。（同じことを講師の数だけ行う。）

そして、「すべてのセッションを開始」をクリック。

1. メインの画面で、「ギャラリービュウ」（画面の上のほうにある）を選択して、生徒の状況を観察する（必要ならばマイクをonにして注意する。

ただし、参加者全員に音声は届くので注意）。

1. 生徒から「チャット」で質問がきたら、「チャット」で「送信先」をその生徒に限定して、その生徒だけに応答する（例：「理数系の先生が空いてから招待するので、しばらくお待ちください。」など）。
2. 準備が出来たら生徒を招待する。

方法は、「ブレイクアウトセッション」から生徒名の右側にマウスを合わせて、「移動先」から適切な（その教科を教えられる）ブレイクアウトセッション(質問の小部屋)を選ぶ（これで招待は完了し、生徒が「参加する」をタップすると移動する）。

1. 同じ生徒が一旦「質問の小部屋」から戻って、もう一度質問してきたら、内容を吟味して適切な（その教科を教えられる）「ブレイクアウトセッション」（質問の小部屋）に移動させる（⑧の操作。一度退出しても「ブレイクアウトセッション」には名前が残っている）。
2. 同じ「質問の小部屋」に戻す場合は一旦空いている別の部屋か予備の部屋へ移動させてから戻す。（なお、生徒に画面左上の「ブレイクアウトセッションに参加」をタップするように伝えるという方法もあるが、生徒にはいじらせないほうが良さそう。）
3. 質問の小部屋で学校の宿題等、塾にモノがない時は（簡単なものは、画面に映させて対応すればよいが）、生徒にスマホ・タブレットで写真を撮らせて「共有」してもらう。
4. パソコンの生徒はデジカメなどで写真を撮らせてパソコンにデータを移してもらい「共有」してもらう。
5. こちら側が用意した確認テストや、教材を生徒に見せたりする場合は、チャットで確認テストなどのファイルを添付して送ることができる。
6. おそらくこちら側から見せる場合は、画面共有より、ファイルを送るほうが見やすいので、この方法がよい。
7. 記述の添削などは、ブレイクアウトセッションに生徒を呼んで、画面に映させ、それを教師側がスクリーンショットで撮って、じっくり見る方法がよいと思われる。

◆共有の指示（質問の小部屋で）などのテキストのやり取りについて◆

1. 詳細設定で、クライアントにも「データの共有」が出来るようになっている必要があります（詳しい先生が設定済みです。）
2. スマホ・タブレットの生徒には、その端末カメラで質問の「問題」を撮影させる。パソコンで参加の生徒には、デジカメなどで「問題」の撮影をさせてパソコンにデータの移動をさせる。（ホームページで指示を出しているので、撮影は終わっているはず。）
3. スマホ・タブレットの生徒の「共有」から「写真」を選択してもらって、必要な「問題の写真」を選択してもらう。パソコンの生徒には、その写真を自分のモニターに表示してもらい（zoomの陰で見えていなくてもよい）、「画面を共有」をクックして「当該写真」を選択し、共有してもらう（これで双方のモニターに「問題」が表示される）。
4. 生徒側がパソコンなら、質問の問題やテキストの写メを、画面共有よりも、チャットで添付してもらうほうが手早いし、こちらはテキストと生徒の顔を両方見ながら授業が進められる。
5. 生徒側がタブレットなどのモバイル端末なら、チャットで画像などを送ることができないので、メール添付で送っておいてもらう方法がある。

その場合は、ZOOM用のメールアドレスを指定して、送ってもらう。